

2015



vol.2

わかやま国体

だより



The 70th National Sports Festival in wakayama



開催に向け、 準備着々。

成功させよう、和歌山国体

CONTENTS

第70回国民体育大会
男女総合優勝に向けて

国体開催に向けて進む施設整備

PLAYER'S VOICE

富田 元輝選手

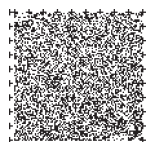
競技・選手を支える人

山路 明氏

競技紹介「弓道」

お知らせ情報

音声コード



音声コードは読上げ装置にて、
情報を音声で聞くことができます。

県立総合体育館(仮称)の完成予想パース(平成23年10月完成予定)

第70回国民体育大会 男女総合優勝に向けた取組



第70回国民体育大会 男女総合優勝に向けて

競技者の 発掘・育成・強化

- 有望競技者の発掘・育成
- 優秀な競技者の発達段階に応じた育成・強化
- 国体候補選手等の強化指定

指導体制の確立

- 育成・強化コーチの資質向上
- トップ強化コーチの招へい
- 優秀な指導者の確保と適正配置

組織の 充実・強化

- 競技力向上対策本部の運営
- 県体育協会・競技団体の組織強化
- 関係団体との連携強化

支援体制の 整備・充実

- スポーツイベントの誘致・開催
- スポーツ医・科学・情報サポート
- 企業スポーツ・地域スポーツクラブ等との連携
- 練習環境の整備

国体（国民体育大会）は、「冬季大会」と「本大会」の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催され、天皇杯（男女総合成績1位）・皇后杯（女子総合成績1位）の獲得を目指し、都道府県代表の競技者が熱い戦いを繰り広げます。

1971（昭和46）年に本県で開催された第26回国民体育大会（黒潮国体）では、本県は、男女総合優勝を果たし、その後、昭和60年代の前半頃までは概ね20位以内で推移していましたが、特に平成14年以降は、40位台に低迷しており、昨年の新潟国体では43位という成績でした。

このため、県教育委員会では、優れた素質を有する子ども達を組織的に継続的に発掘し、発達段階に応じた育成プログラムを実施するなど、中・長期的に、ジュニア競技者の競技力向上に取り組んでいます。特に、本大会で高得点が期待できる集団競技の強化に重点的に取り組み、競技力向上施策の充実を進めています。

二巡目開催となる2015（平成27）年の和歌山国体で男女総合優勝を果たすためには、今後、県や県体育協会、競技団体、県内企業など県全体が一丸となつて、競技力向上に取り組むことが必要です。

会場地市町村及び開催競技（正式・特別）

会場地市町村	競技名	会場地市町村	競技名
和歌山市	開・閉会式	紀美野町	ホッケー
	陸上競技	かつらぎ町	ゴルフ
	水泳（競泳・水球）	九度山町	なぎなた
	テニス	湯浅町	軟式野球
	体操（競技・新体操）	日高町	ホッケー
	バスケットボール	印南町	ゴルフ
	セーリング	みなべ町	軟式野球
	ウエイトリフティング	山岳	山岳
	ハンドボール	カヌー	カヌー
	自転車（トラック）	日高川町	（カヌースプリント）
	相撲		アーチェリー
	フェンシング		ソフトテニス
	柔道	白浜町	卓球
	高等学校野球（硬式）		空手道
	バスケットボール	上富田町	サッカー
	銃剣道		軟式野球
	サッカー		ラグビーフットボール
海南市	バレーボール	那智勝浦町	レスリング
橋本市	ソフトボール		剣道
有田市	軟式野球	北山村	カヌー（スラローム・ワイルド）
御坊市	バレーボール	串本町	サッカー
	軟式野球		ラグビーフットボール
田辺市	サッカー		高等学校野球（軟式）
	ボクシング		
	軟式野球		
	弓道		
新宮市	サッカー		
	自転車（ロード）		
	高等学校野球（軟式）		
紀の川市	サッカー		
	ハンドボール		
	ソフトボール		
	ハンドボール		
岩出市	バドミントン		
	ボウリング		

【県外開催の競技】

門真市（大阪府）	水泳（飛込・シンクロ）
大津市（滋賀県）	ボート

※馬術、ライフル射撃、クレ射撃については検討中

国体開催に向けて進む施設整備

和歌山国体では、県有の20施設のほか、市町村有の37施設、民間の5施設、その他県外の2施設が競技会場として使用される予定です（平成22年2月現在）。

県有施設については、体操・新体操、柔道競技の会場となる新たな県立総合体育館（仮称）を和歌山ビッグホーエール北隣に建設するほか（平成23年10月完成予定）、水泳競技の会場となる秋葉山公園県民水泳場（和歌山市）については、室内プールへの全面建て替えを、さらに、和歌山国体のメイン会場となる紀三井寺公園については、陸上競技場と野球場などの改修工事の計画を進めており、他の国体関連の県有施設と併せて、平成27年の国体開催に向け、着々と整備を進めています。

また、市町村有施設についても、国体の開催はもうろんのこと、国体後のスポーツの振興の拠点とするため、国体開催に向けた施設整備の計画や実施を進めているところです。

今後、本県の競技力向上につなげていくためにも、国体を使用するすべての施設について早期の整備が望まれるところです。

（表紙の写真）

和歌山県立総合体育館（仮称）の概要
地上3階建て、延べ面積8129.11㎡、
観客席：2,000席（立ち見含む。）
1F：メインアリーナ2390㎡、
武道場950㎡
2F：サブアリーナ1040㎡、
3F：機械室



PLAYER'S VOICE

とみた げんき 選手
日本大学4年生 富田 元輝



天皇帝全日本相撲選手権
和商出身の富田（日大）、
史上初の親子横綱
亡き父に「やっと追いつけたかな…」

父越えの連覇に「頑張るだけ」

アマチュア横綱を決める第58回全日本相撲選手権（昨年12月6日、東京・両国国技館）で、和歌山市出身の日大4年生、富田元輝（22）が初優勝した。1980年の第29回大会で父の故忠典さんも手にした天皇帝杯に親子の名が刻まれるのは史上初。目標だった父に「やっと追いつけたかな、て感じです」と。

天皇帝3度目の挑戦。「昨年までは来年につながる相撲を」と勝負があつたが「今年は大学最後なので自分らしい相撲をとろう」とリラックスして臨めた。加えて11月の全国学生選手権団体戦で3年ぶりにチームを優勝に導いた日大主将として使命感を果たせた安堵感もあって「気楽に相撲がとれた」と振り返る。

国体、学生横綱に続き3冠を狙った本命の森本太良（拓大4年）が予選で姿を消し、対抗馬だった前年度優勝の松永六十四（長崎・猶興館高教

諭）は準々決勝で富田が破った。「狙ってなかった」天皇帝だった決勝は意識した。

伊東良（タカノ）に対し「先にまわしを取ってつり上げる」父譲りのつり相撲を頭に浮かべていたが、「立ち合いしつかり当たって前へいった」ことで「一気に土俵際へ押し込み突き倒した。史上初の親子アマチュア制覇の瞬間は「よく覚えていない。でもとにかく本当にうれしかった」。

中学3年生の時、忠典さんが他界。これがきっかけで県立和歌山商業高校に進学し、相撲を本格的に始めた。忠典さんの取り組みはビデオで見たぐらいだが「追いつけない存在」と思わせるほど力強い姿が頭に焼き付いている。

ともに手にした天皇帝杯を見つめ「やっと追いつけたかな、て感じです」としながらも「でも力的にはまだまだ」と目標とする背中は大き。墓前には「優勝したよ」とだけ報告するつもり。「お父さんは『おめでとう』って言うぐらいじゃないか」と照れ笑う。

高校時代の恩師・松本透・和商相撲部顧問は同部初のアマチュア横綱の誕生に「うれしい一言。教え子の活躍は教師みょう利に尽きる。これに満足せず社会人になっても頑張てほしい」とエール。兄・有輝さんは今大会予選落ちしたが「来年は天皇帝杯を獲ります。元輝には負けません」と親子、兄弟制覇を約束する。

富田は、この優勝で大相撲幕下15枚目格付け出し資格を得たが、卒業後は父と同じ和歌山県庁への就職を希望。



優勝報告のため仁坂吉伸知事を表敬訪問
（平成21年12月15日）

次なる目標は忠典さんでもできなかった「連覇」ときっぱり。加えて「地元にも貢献したい」と和歌山国体を見据え「兄弟で出場して団体優勝がしたい」と意欲を示す。

競技・選手を支える人

ソウル五輪レスリングフリースタイル130キロ級6位の出口一也（紀北工業高教諭）や北京五輪同60キロ級銅メダリストの湯元健一（総合警備保障）ら主要大会で活躍する多くの選手を育ててきた。「もし自分がオリンピックにいつてたら育てられなかったかも知れない」。現役時代はモスクワ五輪を目指したが日本の不参加で断念、五輪をあきらめ「和歌山へ骨を埋める覚悟を決めた」。

道場に足を運ぶのは「生活の一部」、55歳の今も

高校生選手と実戦で汗を流す日もある。「どうしたら強くなるか」と悩んだ日々は数知れないが「そのたびに子どもたちに助けられ、教えられてきた」と振り返る。「やつてる以上は勝ちたい。でも結局は、どんな世界にいても負けない、くじけない精神と体力をつくれれば十分なんだ」と指導者となつて30年が過ぎ導いた答え。

インターハイ、国体で毎年のように上位入賞者を出す県高校レスリング界。それでも「ここ3、4年は高校でレスリングをする子どもも減ってきた」。ジュニアクラブは盛んになってきたが、中学校で部活動がないことがネック。クラブチームで続ける中学生と高校生の合同練習を定期的に行うなど普及に努めるも目立った成果は出ていない。「強くするためには練習も厳しくなる。でも厳しいと人数が減る」とジレンマに頭を悩ます。「部員が多ければ多いほどガッツある練習ができるんだからね」と寂しく笑う。

地元国体に向けては開催時に高校2、3年生になる中学生の育成が力ぎで高校生との交流を今以上に深める考え。成人の部では健一、進一（自衛隊）の湯元兄弟をチームの核に据え、現在の高校生が「厳しい関東で力をつけて帰ってきてくれれば」と期待。「和歌山の子がどれだけ頑張ってくれるか本当に楽しみ」と胸を膨らます。



山路 明氏

県立和歌山工業高校教諭、レスリング部顧問

1954年、鹿児島県生まれ。55歳。現役時代はレスリングフリースタイルの選手として活躍。国士舘大時代に全日本選手権57キロ級優勝のほか、国体や全米選手権でも優勝した。和歌山県立和歌山北、和歌山工業3高校のレスリング部顧問として後に五輪で活躍した出口一也、湯元健一を育てた。県レスリング協会の強化部長ヘッドコーチ。



時に厳しく選手らを指導する

シリーズ

競技
紹介

弓道

静中動のバランスが大切 清澄な心保ち射的



弓道八節の「会」の姿勢。写真は鈴木さん

近的は、28^{メートル}先の直径36^{センチ}の霞^{のり}的に当たった矢の本数を競う（的中制）。遠的は、中心に近いほど得点が高い直径100^{センチ}の色的を60^{メートル}先から狙う得点制で競われる。いずれも団体戦で1チーム3選手の構成。一人の選手が4本の矢を射る。近的は的中合計数、遠的は合計得点で争う。和歌山県チームは、平成20年の第63回大分国体で少年女子が近的で8年ぶりの優勝を果たしたほか、昨年の第64回新潟国体では成年女子が遠的で初優勝を遂げた。

剣道、柔道と並び歴史と伝統ある日本武道のひとつであるが一般的に馴染みの薄い弓道。そのみどころについて県弓道連盟会長の鈴木住尚さん（78）は「静中動のバランスが弓道では一番大事なこと。静かな中で見えてくる選手たちの内心の動きを感じ取ってもらえれば」と話すよう張り詰められた緊張感を割く矢に選手たちの思いが宿る。

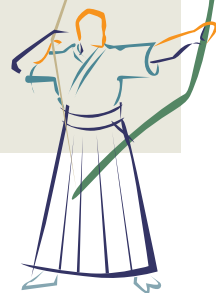
新潟国体、成年女子が遠的初優勝 大分国体では近的で少年女子V

約22^{メートル}の弓は力まかせに引くのではなく「骨で引く」と鈴木さんが表現するよう形が大切。静中動のバランスがわずかでも乱れれば照準は大きく狂う。それは「近的で30倍」。射位（弓を射る位置）で1^ミ狂えば的では3^{センチ}のズレになるという。射位に立ち、的を見据えた時から矢が放たれた後の姿勢までの基本動作を8つの節に分け「弓道八節」（射法八節）と呼ぶが、この間は「清澄な心を保たなければ的を射ることはできない」と鈴木さん。そうして放たれた矢の行方は「弦音を聞けば的を射たかどうか分かる」。

日高高校を最北に紀中から以南まで県立9高校に弓道部があるが、紀北では皆無。遠的射場も田辺市に唯一あるのみで決して盛んではない。鈴木さんは、文科省が中学校体育で武道の必修科目化を打ち出したことや、地元国体を契機に「指導者を育成し、紀北でも取り組み学校などが出てきてほしい」と願いながら、「年1回の例会や毎月の射会を通し、戦うための選手づくりをしていきたい」と気を引き締める。



紀中から以南で盛んな弓道



2015 わかやま国体だより

vol.2 2010年3月発行

第70回国民体育大会和歌山県準備委員会事務局
（和歌山県国体準備課内）

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL.073-441-2015 FAX.073-427-5377
URL <http://www.wakayama2015.jp/>
E-mail wakayama2015@onyx.ocn.ne.jp

ホームページは、

検索

みなさまのご意見・ご要望をお待ちしております。



この印刷物は環境に配慮して大豆油インキを使用し、ユニバーサルデザインの考え方で作られています。

おしらせ情報

黒潮国体展示用パネルを 貸し出します

昭和46(1971)年の黒潮国体を紹介した展示用パネル(全30枚)を作成しました。パネルの貸出し(展示)を希望する場合は、県準備委員会事務局までお問い合わせください。

